

科目名	人文科学1			学年	1年	期生
担当者				期別	後期	
単位数	2単位			講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任	
実務経験	短期大学教授					
一般目標(GIO)						
柔道整復師として医学の場に立つ者の言葉と心について 患者と話しができ、心を理解する能力を身に付ける。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	9	30	2	医学用語の知識1	医学用語を読み説明する。	
2	10	7	2	医学用語の知識2	医学用語を読み説明する。	
3	10	21	2	医学用語の知識3	医学用語を読み説明する。	
4	11	11	2	履歴書の書き方(初級)	自己を見つめエントリーシートに表現する。	
5	11	18	2	履歴書の書き方(中級)	エントリーシートの書き方を工夫する。	
6	11	25	2	時の移り変わり	項目別に世相を調べる。	
7	12	2	2	時事問題を解く	新聞の読み方を説明する。1(着眼点)	
8	12	9	2	読解力の訓練	新聞の読み方を説明する。2	
9	12	16	2	読解力の訓練1	感想文を記述する。(初級の文)	
10	12	23	2	読解力の訓練2	感想文を記述する。(中級の文)	
11	1	6	2	読解力の訓練3	患者との対話で使用する言葉を予測する。	
12	1	20	2	レポートの書き方	初級。言語能力・手法を分類し使用する。	
13	1	27	2	論文の書き方	ことば、形式、表現方法を評価する。	
14	2	3	1	表現力	論文の言葉の良否を判断する。	
15	2	3	2	まとめ	本講義をまとめ、評価する。	
評価基準			教科書			参考書
筆記試験	70%		配布プリント			
平常点・小テスト・課題	30%					
	%					
	%					

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	人文科学2			学年	2年 期生
担当者				期別	前期
単位数	2単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	短期大学教授				
一般目標(GIO)					
柔道整復師として医学の場に立つ者として、世間にむけて患者に向けての対応を身に付ける。 (話をし、心を思いやる)					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	2	医学用語の基礎知識1	読み方と簡単な意味を説明する。①
2	4	15	2	医学用語の基礎知識2	読み方と簡単な意味を説明する。②
3	4	22	2	医学用語の基礎知識3	読み方と簡単な意味を説明する。③
4	5	13	2	履歴書の書き方	エントリーシートの書き方を工夫する。
5	5	20	2	時事問題を読む①	新聞、雑誌を読み理解し述べる。①
6	5	27	2	時事問題を読む②	新聞、雑誌を読み理解し述べる。②
7	6	3	2	読解力の訓練1(上級)	小論文を書く練習。「言葉」を応用する。
8	6	10	2	読解力の訓練2(上級)	小論文を書く練習。「形式・内容」を応用する。
9	6	17	2	読解力の訓練3(上級)	小論文を書く練習。他人の文を理解し評価する。
10	6	24	2	想像力の発展	患者との対話、心のケアについて述べる。
11	7	1	2	日本語力の見直し	自分の文章と他人の文章を比較する。
12	7	8	2	レポートの書き方	調査・研究しさらに高度なレポートを作成を実施する。
13	7	22	2	論文の書き方	小論文、使用禁止用語を説明する。
14	7	29	2	表現力の発展	読書により言葉・表現法を工夫する。
15	8	5	2	まとめ	本講義をまとめ、評価する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	70%		配布プリント		
平常点・小テスト・出席	30%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

令和6年度 九州医療専門学校 柔道整復師科

科目名	自然科学 1	学年	1 年 期生
担当者		期 別	前期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学口腔生化学講座の教員として39年間教育・研究に携わる。		

一般目標 (GIO)

ここで学ぶ自然科学は生物学と化学を基本とした学問分野である。柔道整復学の基礎をつくる解剖学、生理学などの分野は生物学と化学の知識と応用の延長に展開している。故に、現在の柔道整復師には生命科学の知識に基づいて、原子・分子の構造から始まり、細胞に関する知識を踏まえたうえで、人間の体の成り立ち、仕組み、働きなどを理解することが求められている。そこで、生命とは何か、地球上の生命は如何にして誕生したのかを理解したうえで、生命を作る細胞の成り立ちと活動、生命が連続するメカニズム、そして生命が環境の変化に合わせて生活する仕組みについて認識を深める。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	11	3	イントロダクション 原子の構造	「物質」を分類し、その構造を述べるができる
2	4	18	3	元素と周期表	元素の周期表を理解し、重要元素の特徴を列記できる
3	4	25	3	化学結合	主要な化学結合を項目立てて説明できる
4	5	2	3	化学反応 酸・塩基 酸化還元	種々の化学反応式を解釈することができる
5	5	9	3	生体高分子 糖質・脂質・タンパク質	人体を構成する水分・糖質について説明できる
6	5	16	3	細胞の構造	生物学の重要概念の一つである「細胞」を説明できる
7	5	23	3	細胞の働き	生命をつくる細胞の成り立ちと活動を列挙できる
8	5	30	3	物質代謝 酵素・代謝経路	細胞内外でおこる化学反応を総括できる
9	6	6	3	骨形成 結合組織	生体を形成する骨と結合組織の特性を列記できる
10	6	13	3	生殖・発生	生命が連続する仕組みについて説明できる
11	6	20	3	遺伝の仕組み メンデル遺伝	遺伝学の基礎を現実の問題として解釈できる
12	6	27	3	遺伝子の本体 分子遺伝	遺伝子の本体DNAやRNAの働きについて列挙できる
13	7	4	3	発癌・老化	発癌の仕組みと老化のメカニズムを述べるができる
14	7	11	3	生体防御	微生物の侵襲に対して防御する仕組みを説明できる
15	7	18	3	環境学概論	地球環境に及ぼす化学物質の影響を説明できる

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	90%	特に指定なし	特に指定なし
平常点	10%		
	%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	自然科学2			学年	1 年 期生
担当者				期 別	後期
単位数	2 単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	30H・15回			専任・兼任	兼任
実務経験	歯科大学助手、助教を経て、同大学講師に就任。専門である物理を医療工学を用いた歯科理工学、生体材料学へと応用した研究・論文発表も豊富。歯学博士。				
一般目標 (GIO)					
<p>日常生活のさまざまな場面で物理現象が利用されている。本授業では、身近な物理現象を通じて基本的な物理学の考え方を理解する。これらの基礎知識を体系的に理解することで、豊かな教養と人間性を体得するとともに主体的な問題解決能力を身につける。そして医療に関わる専門的な知識や技術を学ぶ上で必要となる物理学的知識を論理的に分析・考察する科学的思考力を習得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	3	3	単位とは何か	基本単位を説明できる。組立単位を説明できる。
2	10	10	3	速さと速度の違い	スカラー量とベクトル量を説明できる。加速度を説明できる。
3	10	17	3	重力とは何か	物体の落下運動を説明できる。重力加速度を説明できる。
4	10	24	3	痛くない絆創膏の剥がし方	力の分解と釣り合いを説明できる。
5	10	31	3	強さはどう表すか	物質の強さを説明できる。強さの種類を説明できる。
6	11	7	3	ヒトとキリンの血圧は違うか	圧力の単位を説明できる。流体の運動を説明できる。
7	11	14	3	力学的エネルギーとは何か	運動エネルギーと位置エネルギーを説明できる。
8	11	21	3	電気コードの中を流れるもの	電荷と電流の関係を説明できる。静電気力を説明できる。
9	11	28	3	ICカードはなぜ記録できる	電磁誘導現象を説明できる。
10	12	5	3	鍋の取っ手はなぜ熱くならない	熱量を説明できる。熱伝導と熱膨張を説明できる。
11	12	12	3	レーザー光は目視できるか	可視光線を説明できる。レーザーの原理を説明できる。
12	12	19	3	放射能と放射線のちがい	放射線の種類を説明できる。核分裂反応を説明できる。
13	12	26	3	金属の話	金属の特徴を説明できる。
14	1	9	3	カルシウムはどこにある。	カルシウムと生物・環境の関わりを説明できる。
15	1	16	3	生命の元素リン	リンと生物・環境の関わりを説明できる。
評価基準			教科書		参考書
出席	25%		指定しない。各回で資料プリントを配布する。		
定期試験	75%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	外国語		学年	1 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	専門学校にて28年間の指導経験有り				
一般目標(GIO)					
医療人として患者とのコミュニケーションをはがるための英語力 専門用語の習得					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	2	Self introduction	The way to communicate in English
2	4	18	2	The part of the body/listening	Medical terms
3	4	25	2	The part of the body/writing	Dictation 1 Medical terms
4	5	9	2	First AID/ Listening	Talking about First AID/ Medical terms
5	5	16	2	Medical Emergencies and Illnesses	Dictation 2 Talking about Medical terms
6	5	23	2	Review	Dictation 3 work book
7	5	30	2	Medical Exam	Dictation 4 Talking about medical exam
8	6	6	2	Medical procedures	Dictation 5 Talking about medical procedures
9	6	13	2	Instructions to patients	Dictation 6 Medical terms
10	6	20	2	Instructions to patients	Dictation 7 Medical terms
11	6	27	2	Medical advice	Dictation 8 Medical sentences
12	7	4	2	Group work	Making medical terms and sentences in group
13	7	11	2	review	Speaking Check sheet's sentences and terms
14	7	8	2	Dictation check and speaking test	Individual test
15	7	25	2	Review	Preparation for Exam
評価基準			教科書		参考書
Dictation	20%				Word by Word Second edition 看護・医療スタッフの英語
Medical sentences and terms test	20%				
Exam	60%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	コミュニケーション論	学年	2 年 期生
担当者		期 別	前期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	高校での教員歴10年、高専での教員歴9年		

一般目標(GIO)

自分のコミュニケーションの特徴を知ることができる。
 コミュニケーション学や関連領域の理論をもとに、他者や社会との関わりを学ぶ。
 与えられたテーマについて調べた成果を発表し、情報収集能力やプレゼン能力を向上させる。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	3	アイデンティティ	自分のアイデンティティを意識しながら自己紹介できる。
2	4	23	3	言語コミュニケーション(1)	言葉を介して、正確な情報伝達を行うことができる。
3	5	7	3	言語コミュニケーション(2)	言葉を介して、効果的な情報伝達を行うことができる。
4	5	14	3	非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションを使用して、効果的な情報伝達を補うことができる。
5	5	21	3	グループでのコミュニケーション	話し合いに参加する際に、グループ内での役割を意識することができる。
6	5	28	3	男女のコミュニケーション	周囲の人と関わる際に、男女のコミュニケーションの特徴を意識することができる。
7	6	4	3	ジェンダー□	社会的に構築される性を理解して、自分の性のあり方を振り返ることができる。□
8	6	11	3	差別	固定観念や偏見、差別の違いを理解して、自分の言動や行動を振り返ることができる。
9	6	18	3	ヘルスコミュニケーション、障がい	医療や介護の場面や障がいについて学び、患者へのまなざしを認識することができる。
10	6	25	3	マスメディア	マスメディアによって意味が構築されるプロセスを学び、自分とマスメディアとの関わりを振り返ることができる。
11	7	2	3	発表1	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
12	7	9	3	発表2	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
13	7	16	3	発表3	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
14	7	23	3	発表4	情報収集を行って意見をまとめ、口頭で報告できる。
15	7	30	3	コミュニケーション	コミュニケーションの性質について意識することができる。

評価基準		教科書	参考書
小テスト	50%	なし	なし
発表	20%		
発表の反省レポート	20%		
授業の振り返りレポート	10%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	社会科学	学年	2 年 期生
担当者		期 別	後期
単位数	2 単 位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	兼任
実務経験	大学の客員准教授として勤務し、感染制御学講座を担当し、数々の研究・論文発表を行っている		

一般目標 (GIO)

ヒトが集団生活を営む都市の出現(社会の誕生)と感染症の流行は密接な関係がある。つまりペストの大流行などを経て微生物学が確立され、まず予防のための「法」が制定され、社会に必要な種々の法律が誕生した。この微生物の具体的な特徴とその病気を理解し、その個人レベルの予防対策や国家レベルの対策としての感染症法の詳細を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	1	微生物学とは	感染症という疾患の理解のため、微生物の自然発生説の否定とコッホの条件が前提であることを説明できる。
2	10	9	1	感染と発症	感染成立の要件と種々の感染様式並びに夫々の疾患名を説明できる。
3	10	16	1	感染と免疫	免疫現象を各免疫細胞の働きと共に具体的に説明し、その反応過剰の現象としてのアレルギーや自己免疫疾患を説明できる。
4	10	23	1	細菌の特徴	細菌はグラム染色や丸か四角かの形態で分類されることやその病原性の機構を説明できる。
5	10	30	1	細菌各論1	グラム染色で陽性を示す代表的な細菌(黄色ブドウ球菌、破傷風菌等)の起こす病気の概要を説明できる。
6	11	6	1	細菌各論2	グラム染色で陰性を示す代表的な細菌(サルモネラ菌、腸炎ビブリオ、ピロリ菌)などが起こす病気の概要を説明できる。
7	11	13	1	その他の細菌の病原性	性感染症(梅毒等)、ワクチン関連(インフルエンザ菌等)及び結核菌並びにリケッチアやクラミジアの病原性の概略を説明できる。
8	11	20	1	ウイルスの特徴	ウイルスの基本構造及び分類とその病気の特徴を説明できる。
9	11	27	1	ウイルス各論1	主なDNAウイルス(ヘルペス、アデノ、パピローマ)による病気の特徴を説明できる。
10	12	4	1	ウイルス各論2	主なRNAウイルス(インフルエンザ、風疹、麻疹、ノロ、肝炎)による病気の特徴を説明できる。
11	12	11	1	ウイルス各論3	媒介昆虫が必要(デング等)、免疫担当細胞が攻撃対象となる(ヒト免疫不全等)などの病気の概要を説明する事ができる。
12	12	18	1	その他の病原体	プリオン病などを解説できる。またカビや寄生虫の引き起こす病気を説明する事ができる。
13	12	25	1	感染症の治療と予防	微生物や寄生虫を殺す薬とそれらの作用、副作用などを解説できる。ワクチンの概要が説明できる。
14	1	8	1	新興感染症など	わが国には存在しないマラリア、狂犬病、エボラ出血熱などの概要が説明できる。
15	1	15	1	感染症対策	消毒法の基本を説明でき、国家対策としての感染症法の組み立てや内容の詳細を説明できる。
評価基準				教科書	参考書
筆記試験	90%			コンパクト微生物学第5版(南江堂)	病気が見える6免疫・膠原病・感染症(MEDIC MEDIA)
出席	10%				
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)